

# 感染性胃腸炎について

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課

## 1 流行状況

- 令和4年第44週（10月31日～11月6日）の定点当たり報告数は全県で **1.55** と、前週の **1.09** に比べ増加しました。
- 社会福祉施設における集団発生も報告されていることから、引き続き十分な注意が必要です。
- 調理や食事の前には十分に手を洗うなど、予防を心がけましょう。

## 2 感染性胃腸炎とは（原因となる主なウイルス等）

	ノロウイルス	ロタウイルス
主な症状	嘔吐、下痢、腹痛、軽度の発熱など	嘔吐、下痢、腹痛、発熱
潜伏期間	1～2日間（平均36時間）	1～3日間（平均48時間）
経過	通常、3日以内で回復	通常、嘔吐は1～2日、下痢は1週間程度で回復
流行する世代	全ての世代で発生	乳幼児を中心に流行 まれに成人でも集団発生が起こる
治療	特効薬はありません。乳幼児のロタウイルス感染では重症化することがあります。 嘔吐や下痢で脱水症状を起こしやすいため、水分補給をしましょう。	

## 3 予防方法

- 石けんを用いた流水による手洗いを徹底しましょう。特に排便後、おむつ交換後、また調理や食事の前には十分に手を洗いましょう。
- 便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんを用いた流水で十分に手を洗いましょう。
- カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。  
（中心温度85～90℃で90秒以上の加熱が必要です）

## 4 学校保健安全法における扱い

- その他の感染症（第三種感染症として扱う場合もある）と定められています。
- 症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態のよい者は登校（園）可能ですが、手洗いを励行することとされています。

## 5 県内における胃腸炎患者等から検出された病原体（起因ウイルスの種類と型別）

		胃腸炎の集団発生事例							感染症発生动向調査 患者						
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
ウイルス検出事例数・患者数		0	3	38	0	0		8	1	2	1	0	1		
ウイルス 検出数	ノロウイルス	0	3	38	0	0			1	0	0	0	1		
	GI. NT			1											
	GII. 2			15											
	GII. 4		3						1						
	GII. 17			14											
	GII. NT			8									1		
	サボウイルス							8							
	パレコウイルス														
アデノウイルス										1					
アストロウイルス									2						

※一事例又は同一患者から複数のウイルス、型の検出あり